



様式第4号（第6条関係）

令和2年10月9日

富士見市議会議長 篠田 剛 様

会派名 草の根
代 表 今成 優太

行政視察・研修（政務活動）報告書

下記のとおり、行政視察・研修（政務活動）を実施しましたので、報告いたします。

記

- 1 期 間 令和2年10月5日～10月6日（1泊2日）
- 2 参加者名 勝山 祥
- 3 場所（行政視察地・研修場所）
全国市町村国際文化研修所
滋賀県大津市唐崎2丁目13番1号
- 4 調査・研修概要
令和2年度トップマネジメントセミナー（市町村議会議員研修）

【講義1】

「東日本大震災から学んだこと 想定外は起きる」
復興庁顧問（元事務次官）岡本全勝氏

東日本大震災発生後、復興への指揮をとった岡本氏から、様々な体験、課題が語られた。前例のないことへの対処方針として「暗闇の灯台」であることを意識した。分からなくても灯台までくれば伝えられる、助けられる。議員にして欲しいことは、現場の情報を整理された形であげて欲しい。また、

情報の中に優先順位をつけて欲しいとのこと。加えて、行政が何をしようとしているのかを、住民に伝えて欲しいとのこと。

【講義2】

「デジタルが社会・産業・経済・地方を変える」
東京大学大学院工学系研究科教授 森川博之氏

デジタルが社会を変えて行くことの可能性、そしてそのきっかけを見つけることが大切であると、様々な事例の中で講義があった。かつて、洗濯機ができたときに想像もできない社会の変化があった。家事労働を減らすことで、衛生観念を変え、毎日、服を着替えるようになり洗濯物が増えることで、衣類市場も拡大した。データの収集→データの蓄積・解析→現実世界への制御・サービス。このループに気がつき具現化することが求められる。そのためのキーワードは多様性。そして、アナログな人間力がなくては具現化することは難しい。

【講義3】

「大災害は市役所の実力テスト」
岡山県総社市長 片岡聡一氏

2年前の7月豪雨の際、発災から収束までの判断について講義があった。堤防の限界まであと1メートルという段階で、市内の町会長を全て集めて「あと1時間で堤防が決壊する。一軒ずつ、高齢者、障害者を避難させて欲しい」と告げて8400人が避難した。それが総社市の実力だったと振り返る。生きるか死ぬかの非常時、3つの点でアドバイスがあった。

- (1) 非常時ではルールを破れ
- (2) 公平平等を求めすぎると、公平平等が遠のいていく
- (3) リーダーシップを取るのは1人

【講義4】

「逆境に負けない強い組織の在り方～with コロナ after コロナの時代に向けて～」
株式会社 minitts 代表取締役 中村朱美氏

1日100食限定の店「佰食屋」を経営している方から、フードロスほぼゼロ、早く帰宅できるなど今までできそうで、できなかった取組で、幸せに働ける社会を目指している内容が披露された。中でも、出勤、退勤時間を自分で選び、基本給を決定することや、有給や公休の指定を、自らで管理する自己決定を大切にすることで愛社精神が醸成されるとの指摘には驚いた。「自分の人生を丁寧に生きる」ことを、次世代にも作り上げていきたい。

まとめ

今回は災害に対する講義が多かったが、共通している事は、新しい事を作り出すことは難しいが、考え続けていくことや、次世代に対する責任を意識する必要がある、ということである。そしてリーダーの判断は早く、責任、情報を一元化することの重要性を確認することができた。特に災害対応時での活動の仕方をより考えていきたいと感じる。デジタル化における気づきや、情報の整理、優先順位、そして判断と責任、最後に次世代への意識と、多様な学びと課題を受け取ったので、富士見市でも生かしていきたい。